

ロマンスが包み、育て、 そして現在に

人々の心の中でなお生きる 竹鶴氏とリタ夫人

JR余市駅に程近く、スコットランド風の建物が周囲の景色に溶け込んでいるニッカウキスキー北海道工場（余市蒸溜所）。スコットランド民謡「ロッホローモンド」の曲が流れる復元された工場内の旧竹鶴邸と、そのすぐ近くにあるウイスキー博物館を訪ねると、映像とともに日英両国を結んだ二人の「愛の軌跡」が、なお、現在も余市町の人々の心の中に生き続けていることを実感する。

いうまでもなく竹鶴政孝氏はニッカウキスキーの創業者。1918年（大正7年）ウイスキー造りを学ぶため、単身英スコットランドに留学した竹鶴氏は、民謡のロッホローモンドで日本でも知られるスコットランドのストラスケルビン市出身の女性ジェシー・ロベルタ・カウン（愛称リタ）さんと知り合った。

周囲の反対を押し切って、二人は結婚。同社創業を含め、二人は生涯の伴侶として余市町の人々と共に生き抜いた。

リタ夫人は61年（昭和36年）、竹鶴氏は79年（同54年）に亡くなり、二人には名誉町民の称号が贈られたが、余市町国際交流推進協議会会長でもある平井同社取締役北海道工場長は「今なお、想い出以上のものがあるようだ。姉妹都市提携にも結び付いたし、まちづくりにも生かされた。そして、余市の人々に二人とニッカは本当に大切にしている。ありがたいことです」という。

夫人の故郷・ストラスケルビン市と 初の日英の姉妹都市提携

平井同工場長の言葉通り、87年（同62年）、リタ夫人の故郷・カーキンティロッホがその一部になっているストラスケルビン市（スコットランド南西部）のコイル市長から同社を通じて友好関係樹立の希望が余市町に伝えられ、両首長らの公式訪問などによって、翌88年（同63年）10月、同市で日英間で初、道内都市としては今でも唯一の姉妹都市提携のスピード調印となった。



リタ夫人の故郷の旧ストラスケルビン市を訪問した余市町の中学生使節団＝2000年10月

コイル市長が姉妹都市提携を思い付いたのが、竹鶴氏の家族がリタさんの肉親を訪ねた際に運転手がつぶやいた「少女のロマンスが姉妹都市に結びついたらいいね」という一言だったそう。まさに、二人のロマンスは姉妹都市提携という形で、現在によみがえったといえる。

調印翌年の89年（平成元年）に、同社をはじめ町内主要機関、団体、個人からなる民間の任意団体「余市町国際交流推進協議会」、さらに、翌90年10月には「通訳ボランティアの会」も設立され、町ぐるみで交流活動が動き出した。

同市への親善使節団派遣（16人、89年）、同市親善使節団の来町（市長など3人、91年）、「勤労青少年交流プロジェクト」の一環として92年に同市から11人、93年には同町から14人の勤労青少年が相互訪問、95年の同市親善使節団5人の来町などの多彩な人的交流が続けられた。

イースト・ダンバートンシャイア市との再調印

96年（同8年）4月、行政区再編のため、ストラスケルビン市はイースト・ダンバートンシャイア市と合併した。このため、翌97年11月、余市町とイースト・ダンバートンシャイア市はテレビ会議システムを利用して姉妹都市提携に再調印し、改めて友好関係の継続、発展を誓い合った。

2000年（同12年）余市町の中学生6名が同市を訪問、学校の授業に参加したり、茶道や浴衣の着付けなど日本文化を紹介しながら親交を深めた。

翌年には、同市の中学生が来町し、「北海ソーラン太鼓」を楽しむ一方、スコテッシュダンスを披露するなど、順調な再スタートを切った。

さらに、町と余市町国際交流推進協議会は姉妹都市提携5周年を記念して02年9月1日から1週間を「スコットランドWEEK（ウィーク）」とし、作家C・W・ニコルさんの講演会や同市を紹介する写真・絵画展を開催、また、インターネットによるTV会議も開いた。



姉妹都市提携5周年を記念してイースト・ダンバートンシャイア市とインターネットによるテレビ会議をする余市町の中高校生たち＝2002年9月

TV会議では双方の中高校生8人による対話、首長同士の今後の交流に関する意見交換のほか、余市町のバグパイプバンド「余市パイピングソサエティ」と同市の少年少女合唱団がスコットランド民謡「蛍の光」を合同演奏するなど、インターネット時代ならではの居ながらにしての交歓風景を繰り広げた。

財政難などの経済的なネックからその後の相互訪問は“一休止状態”だが、インターネットによるTV会談などの手法はこれからの国際交流の1つのあり方を示唆しているといえる。



余市名物の「北海ソーラン太鼓」に挑戦するダンバートンシャイア市からの中学生使節団＝2001年6月、余市町

姉妹都市交流から生まれた文化活動

姉妹都市交流、それに関連する国際交流事業を町と協調しつつ、民間の任意団体として主体的に取り組んでいるのが、姉妹都市提携翌年の1989年（平成元年）に設立された余市町国際交流推進協議会である。ニッカウヰスキーをはじめ町内の30団体、個人20人が加盟（2005年5月現在）し、国のふるさと創生基金の一部を基本財源に個人1口千円、法人同2千円の会費で自主運営されている。

姉妹都市提携による訪問団の派遣、国際交流事業に関して個人3万円、団体10万円の奨励金助成、ホームステイなどによる訪問団の受け入れ、ボランティア通訳の派遣、さらに「よいち国際交流NEWS」を発行し、活動内容の理解を求める試みも行われている。

このほか、英国の英語指導助手による町内の小学生を対象にした年2回の英会話交流会開催も楽しい催しだが、前述した5周年記念事業のインターネットTV会議などアイデアを凝らしたさまざまな交流事業に取り組んでいる。

その中でユニークなのが5周年事業の一環として、02年9月の「スコットランドWEEK（ウィーク）」に行った英国産オークの記念植樹だ。

1902年（明治35年）の日英同盟100年を記念して国レベルの日英グリーン同盟が結成され、英国オークの植樹運動が始



2年前に植樹したオークの木を背に記念撮影する元リタ幼稚園の園児たち＝2004年9月

まったが、イースト・ダンバートンシャイア市と姉妹都市提携を結んでいる同町は、在日英国大使館に植樹運動への参加を申請した結果、同町でのオーク植樹祭実施が実現した。

リタ夫人が叔母の遺産を寄付したリタ幼稚園の近くで園児14人らが植樹したが、以来毎年10年間、植樹したオークの木と園児を写真撮影して「イングリッシュオークが見つめたコミュニティ」と題するアルバムを作成、お互いの成長と両国の友好を確認しようという独自の試みも行っており、他にはあまり例のない国際交流事業になっている。

道内唯一のバグパイプの会も健在

旧ストラスケルビン市との姉妹都市提携翌年の1989年（平成元年）、初めて同市を訪れた余市町の親善使節団一行は、スコットランドの民族楽器バグパイプの演奏を直に聴いて感動した。



姉妹都市提携5周年を記念して開かれた町民交流会「スコットランドのタベ」でバグパイプを演奏する余市パイピングソサエティの人々＝2002年9月

中でも現在も余市パイピングソサエティ会長を務める新谷邦夫・町助役は「言葉が分からなくても音楽は心を通じ合え、文化交流に最適」と考えた。

帰国後、有志を募って教材などを集め、北海道では初のバグパイプバンドとなる同ソサエティを立ち上げた。団員は27人。さらに91年（同3年）同推進協議会が100万円を助成してバグパイプ5台、スネアドラム2台を購入、賛助会員に交流奨励金を支給し、同市でホームステイしながら2カ月間バグパイプスクールで研修を受けさせるほどの熱の入れようだった。

町内の各種イベントでバグパイプの演奏、パレードは余市の名物ともいえるほどだ。

関東、関西のパイピングソサエティとの合同演奏や同じく姉妹都市提携の関係でバグパイプを入手した小樽市や十勝管内池田町との交流も一時行われた。

今は高齢化などもあって団員は6人に減少したが、町のイベントだけでなく、土日にはニッカウキスキーの工場見学に訪れる観光客にボランティアで演奏しており、町に根付いた姉妹都市交流の具体的な成果となっている。

まちづくりの中核「リタロード事業」

JR余市駅と町役所のほぼ中間にあるリタ夫人ゆかりのリタ幼稚園。そこから国道229号線を挟んで立てられている道路標識には次のような文章が書き込まれている。

「リタロード／ この道路は竹鶴リタ夫人にちなんで名づけられました。リタさんはスコットランド生まれで余市をこよなく愛した人でした。／ リタロードを守る会」

余市町河川改修事業に関連して町は、国、道の協力を得て、1991年（平成3年）からJR余市駅を起点にニッカウキスキー

北海道工場、宇宙記念館、リタ幼稚園、余市橋（通称リタブリッジ）を経て町役場までの道道、国道229号線1.3キロ間を「リタロード事業」として街路再生に着手した。

その名の通り「スコットランドの様式と大きな夢を実現した竹鶴氏と、それを支えたリタ夫人が共に愛し続けた余市の歴史と文化、風土を生かした個性的なまち並み」「スコットランドをイメージしたロマンを伝える散歩道」が基本テーマ。

姉妹都市との経済交流の一環として起点のJR駅舎に合築したエルザプラザにはスコットランド物産を展示。また、スコットランドレンガを輸入して、歩道、消防庁舎、宇宙記念館などの広場に使用しているほか、スコットランド風の街路灯の設置、スコットランドのヒースの植栽など、2003年（同15年）まで、精力的な街路改修が行われ、すっかり余市の“新しい顔”となった。

リタロードに関連して、「余市のまち並景観を考える会」に続いてボランティア組織の「リタロードを守る会」も発足、緑化や清掃活動に取り組み、03年度には国土交通省から「手づくり郷土賞（地域活動部門）」の大臣表彰を受けた。

リタロードは正に、ハード、ソフト両面で余市の町に息づいているといえる。

同町出身の日本人初の宇宙飛行士・毛利衛さんを記念し、



「国際交流」の夢をはぐくむ余市宇宙記念館

1996年（同8年）に総額27億円を投入して建設された余市宇宙記念館も壮大な国際交流の場といえなくもない。

そして、その隣にあるニッカウヰスキー北海道工場には年間26万人の観光客が訪れ、7千人程度が外国人だという。スコットランドにはなお、同社のベン・ネヴィス蒸溜所もある。

リタロードは二人のロマンが今に生きる「国際交流の場」といっても過言ではない。



スコットランド風の街路に改修されたリタロード＝JR余市駅前

余市町

人口：約2万3千人 面積：140.6km²

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/>

札幌市から53.7キロ離れニセコ積丹小樽海岸公園の一部に位置する。古くから景観と漁場に恵まれ、フゴッペ洞窟など数多い遺跡の観光資源への活用も図られている。ニッカウヰスキー、宇宙飛行士・毛利さん、スキーの笠谷、舟木両選手の出身地に加え、

全道一のりんご生産地、北海道の文化遺産「正調ソーラン節」発祥の地として北海ソーラン祭りも有名。国際交流の問い合わせ先
余市町企画政策課（国際交流推進協議会）
TEL(0135)21-2111